



そろばんは頭をよくする魔法の道具。

ココ数週間は暑くも寒くもなく過ごしやすい穏やかな気候が続いていますね。一年中こんな感じなら良いのになあ〜  
とつい‘ないものねだり’してしまいます。

さて、5月29日は全珠連検定試験。今回の検定では段位そろばん・段位あんざんをはじめ中学生の生徒延べ10名が受験します。中でも段位そろばんは試験種目が7種目あり、かつ難易度も高いので希望通りの段位をゲットすることは至難の業ですが今回は2名が意欲的にチャレンジします。受験するみなさん、目標のゴールは目の前！ You Can Do It!



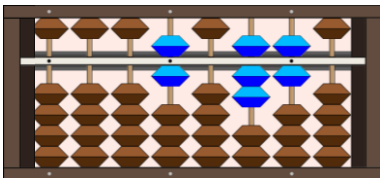
## 6 級 割り算 九立商とは？

そろばん6級になるとそれまでの1ケタで割るシンプルな割り算から2ケタの計算に突入し、全体的にレベルがアップするので、戸惑ってしまう生徒もでてきます。今回は割り算の中で多くの生徒が苦手とする九立商（きゅうりっしょう）と呼ばれている方法をお話します（この言葉はそろばん業界でしか通用しません）。

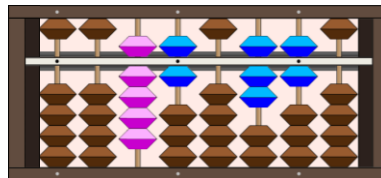
例えば  $6,076 \div 62$  の場合、最初の数はなにを置くのか、一瞬戸惑ってしまう生徒は少なくありません。この問題のように割られる数（左側）と割る数（右側）の最初の数字が同じで、二つ目を比べると左側が小さい場合（ $60 < 62$ ）、答え（商）に9を入れるとスムーズに解ける場合があることから、この名称がついています。

### ◆ A パターン ( $6076 \div 62$ )

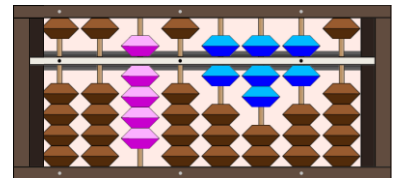
・青の珠…>割られる数 ・紫の珠…>答え ・割る数(62)は置かない



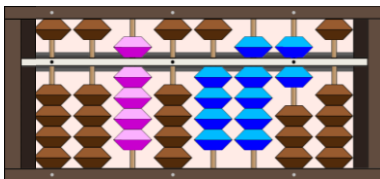
① 60の中に62はないけど、答えは何を置けばよいのだろう？



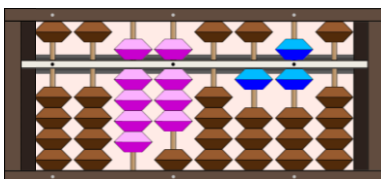
② このような場合、九立商で試みに9を入れてみると…



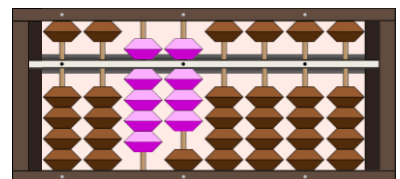
③ 60から  $9 \times 6 = 54$  を引く



④ 続けて  $9 \times 2 = 18$  を引く



⑤ 次に  $496 \div 62$  が残るので  $49 \div 6 = 8$  を入れる

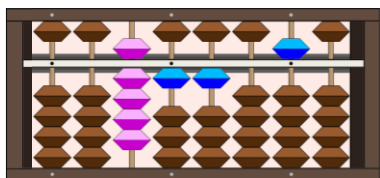


⑥ 正解は98。おしまい！

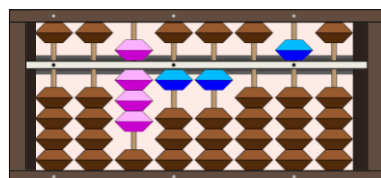
\*九立商のすべての問題がこんな感じでスラスラ進めば、これほど楽なことにはないのですが現実には甘くありません。最初の数が同じで、左側の二番目が小さいの（●□<●△）で9を入れてみても上手く出来ない場合もあります（下図）。

### ◆ B パターン ( $1105 \div 17$ )

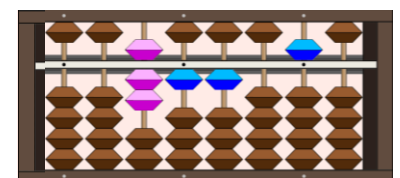
・青の珠…>割られる数 ・紫の珠…>答え ・割る数(17)は置かない



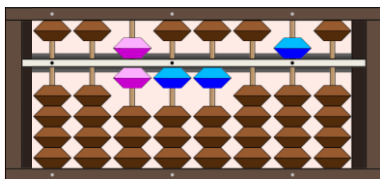
① これは九立商！と予想して9を入れてみる。最初の9は引けても次の20から  $9 \times 7 = 63$  が引けない。



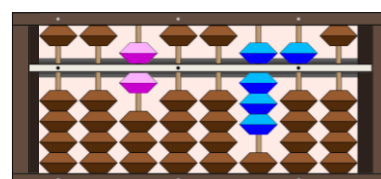
② では商を8にして再挑戦。しかし最初の8は引けても次の30から  $8 \times 7 = 56$  が引けない。



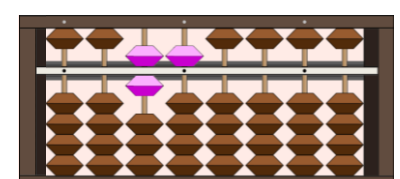
③ 今度は商を7にしたなら？やっぱり最初の7は引けるが40から  $7 \times 7 = 49$  が引けない。



④ 商を6にすると、残が50となり次の  $6 \times 7 = 42$  が引ける。



⑤  $85 \div 17$  の商5を入れる。



⑥ 正解は65。おしまい。

\*そろばん6級に入った当初はまだ慣れていないので上図のようなプロセスを踏みますが、練習を反復して反射神経が身に着くと、問題を見て瞬時に正解の6を置けるようになります。また、あんざん3級以上ではこのような問題は当たり前のようにバンバン出てきますが、多くの生徒は直ちに正答を出せるようになります。